

平成26年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1473200937	事業の開始年月日	平成16年5月1日
		指定年月日	平成16年5月1日
法人名	有限会社横浜ソフトケアサービスセンター		
事業所名	フレンジィ都岡		
所在地	(〒241-0031) 横浜市旭区今宿西町296		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
		通い定員	名
		宿泊定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	平成27年1月26日	評価結果 市町村受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

大きな家族として共に暮らし、利用者の自己決定を尊重したケアを行っている。管理者と職員の垣根を低くし意見の出やすい環境を作っている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	神奈川県横浜市中区本町2丁目10番 横浜大栄ビル8階		
訪問調査日	平成27年2月27日	評価機関 評価決定日	平成27年5月12日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の概要】 この事業所は相鉄線鶴ヶ峰駅北口バスターミナルからバスで10分、バス停から徒歩5分ほどの自然環境に恵まれた住宅地にある。周辺は雑木林や畑、植木の苗圃のある里山の風情がある。 建物はユニットごとの別棟になっている。1階が居室、利用者が日中過ごすリビングが2階となっており、天窓があり採光がよく清潔である。エレベーターはあるが、階段昇降を生活リハビリに活用している。壁には折り紙で作ったひな人形等の作品や絵手紙の作品、行事の写真を飾っている。 【利用者本位で家庭的な運営】 利用者第一の法人の理念と、「大きい家族として共に暮らす」を主とした事業所の理念がある。管理者は、「自分の家族を入居させたいと思えるホームにしたい」という思いを職員に伝え、運営に活かしている。職員が自主的に菜園を作ったり、美容師の資格を持つ職員が利用者の整髪をしたり、食事は、和食を主体にした家庭的な料理を提供するなど、家庭的な運営をしている。 【地域交流と利用者の暮らしぶり】 町内会に加入し防災訓練に参加している。事業所の七夕行事に中学生を招いたり、納涼祭には家族や地域住民を招き、交流している。地区センターを借りて運動会、花見、バーベキュー、クリスマス会などの行事を行っている。絵手紙、紙芝居、歌などのボランティアの来訪もある。利用者はリビングで体操をしたり、合唱やレクリエーションを楽しみくつろいでいる。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	9～13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	14～20
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	フレンドィ都岡
ユニット名	フレンドィ都岡 1号館

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を共有し、実施している。	事業所の開設時に作成された4カ条の理念を継承し、玄関や事務室に掲示している。管理者は、「自分の家族を入居させたいと思えるホームにしたい」という思いを、ユニット会議で職員に伝えている。接遇研修などにより、業務の中で理念の実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区センターを利用したり、お買い物に行ったり、地域とのつながりを持つよう努めている。	今宿西町内会に加入し、職員が防災訓練に参加している。地区センターを借りて運動会を開催した。ケアプラザの行事に出かけたり、ボランティアを紹介してもらったこともある。絵手紙（月2回）や紙芝居と歌（それぞれ月1回）のボランティアの来訪がある。事業所の七夕行事には中学生を招いたり、納涼祭には家族と地域住民を招き交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域貢献ができるように、職員の意識、力量を育成している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度会議を行い、意見を取り入れている。	会議は2ヶ月に1回開催され、町内会長、民生委員、地域包括支援センター職員、中学校校長、区生活保護課担当職員、事業所職員、建物オーナーが出席している。会議では運営報告を行っている。昨年、外部評価調査員が出席し、評価結果の報告をした。生活保護課担当職員には物品購入の相談、民生委員には初詣の駐車場確保などの相談をしている。	運営推進会議では、利用者と家族からも意見・要望を聞くため、出席を働きかけることを期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	担当ケースワーカーとの協力関係を築いている。	旭区高齢障害支援課とは要介護認定申請等を通じて連携している。生活保護を受給中の人があり、旭区生活保護課とは連絡を密にしている。グループホーム事業者連絡会の瀬谷・旭区ブロック会や交換研修に参加し、同業者とは交流を継続している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	人としての尊厳を尊重してケアを実施している。	身体拘束をしないことを契約書、重要事項説明書に明記しており、契約時に説明している。マニュアルがあり、ユニット会議で話し合っている。玄関は防犯のため、契約時に説明し施錠している。帰宅を強く望む方には、話題を変えたり、一緒に買い物に出かけたり、ドライブに付き添うなどして、気分転換を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内での意識を高める事で虐待防止に繋げている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	話しやすい環境や機会を作り、説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見、要望をユニット会議で話し合い、反映に努めている。	家族の面会時に意見・要望を聞き、法人とも連携し、対応している。家族会を設置したが、独居の人が多く家族の出席は少ない。	今回の外部評価で行った「利用者家族等アンケート」などから明らかになった意見・要望を、運営に反映していくことを期待します。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員間のコミュニケーションやユニット会議等で積極的に意見や提案を聞き反映させている。	月1回のユニット会議で職員が意見を言える機会を設けており、職員が自発的に菜園を作ったり、美容師の資格を活かして利用者の整髪をするなどの事例に結びついている。また、法人代表が各事業所を巡回したり、法人の全職員が参加する会議があり、職員の意見や提案を聞いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者との面談の機会を適時設けており、就業環境の向上に努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の情報を掲示し、職員側から積極的に参加希望が出来る環境を作っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	交換研修などで関わった施設との交流やブロック会議に参加したりネットワーク作りに努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	具体的に傾聴、受容、共感を柱とし、対応に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所される際に不安な事や希望される事を話し合いの時間を設け関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族、ケースワーカーから得る情報をもとに行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	大きな家族としてとらえ、関係を築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との良好な関係を築き、本人が何を望みどんな暮らしをしたいか支えている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	各々の生活歴を確認の上、個々に対応していく。	以前は、生活していたケアハウスの職員や職場の同僚の面会があったが、利用者の高齢化に伴い現在はいない。ボランティアで訪れる人とは馴染みの関係になっている。近くの地区センターの行事に参加したり、図書館に出かけ、馴染みの場所になっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共有スペースにおいて、多種行事を共にする事で、相互関係の構築に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も受ける事が出来るサービスについて相談、手続きについて支援を行っている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望や意向を把握し、それに則してケアプランを作成している。	利用開始時に本人・家族から独自のフェースシートとアセスメントシートを使って、思いや意向を聞き取っている。入居後は、職員が観察や会話の中で意向を把握するようにしている。意志の疎通が困難な人には、根気よく話しかけたり、自分で選択できるような話し方をして、表情や雰囲気から検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、ケースワーカーから得る情報をもとに行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録、バイタルチェック、申し送りにて、把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングシートを使用し、ケアプランに反映させている。	月1回のユニット会議で計画の実施状況を共有し、3ヵ月毎にモニタリングを行っている。介護計画の見直しは原則6ヵ月ごと、心身の状態に変化があれば随時行っている。最近、「介護計画に沿った行動記録（介護経過記録）」を改訂し、モニタリングにも活用している。	介護計画には、往診医や看護師など、必要な関係者の意見を反映することを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録、申し送りノートの記載内容について検討し努力をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時、その時に生まれるニーズや、サービスの多様性に対応。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	個々のご利用者の応じて、地域資源を活用させて頂く。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望された、かかりつけ医への報告、相談等、関係構築に努めている。	利用者全員が協力病院の往診を受けている。訪問看護師も月に2回ある。歯科は週に1回の往診があり、診療結果はドクターファイルに記入している。他の専門医への受診には職員が付き添っている。インフルエンザや肺炎球菌の予防接種は法人が支援している。認知症の対応については、協力医の精神科医に相談している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月に2回の訪問看護師が来訪し、相談や適切な看護を実施している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	既往歴、服用薬、ADL、ホームでの生活をまとめた情報を提供している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期を迎えそうな利用者について、かかりつけ医に相談し対応している。	契約時に看取りをしないことを口頭で伝えている。平成26年12月に法人が「重度化した場合における（看取り）指針」を作成し、適切なサービス提供が可能となるまでは、看取りをしないことを明文化した。現段階では職員への周知は徹底できていない。重度化した利用者の退去支援は、契約書に基づき行っている。管理者が看取りケアの外部研修に参加し、伝達研修を行った。	重度化や終末期の対応方針について、職員への周知と意識の共有を図ることを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応について講習を行ったり、マニュアルを用意し、適切な対応が行えるよう努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策の一環として、職員の消防訓練を定期的実施している。	昨年8月に消防署の立会いで夜間想定避難訓練を、今年の2月には自主消火訓練を実施した。近隣にチラシを配布したところ、地域住民の見学があった。町内会の避難訓練には、職員が参加している。旭区防災マップを入手し事務所に掲示している。乾パン、飲料水の備蓄はあるが、量は十分でない。	非常用食料と飲料水は3日分程度を備蓄し、備品などの在庫管理を期待します。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念に掲げ、個人の尊厳を守る事に努めている。	利用者の人格尊重については、理念のひとつである「生命・尊厳・生活を守る」などを接遇研修で周知している。会社案内に個人情報の使用範囲について記載している。個人情報保護方針が玄関に掲示されている。利用者との契約時に個人情報の取扱方針について説明を行い、同意書を受け取っている。職員には入職時に話し、誓約書の提出を受けている。個人情報に係る重要書類は、事務室のキャビネットに施錠して保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定や、希望を汲み取り易い雰囲気作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしい暮らしを実現する為に、運営を工夫して希望にそえる準備を日々行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の意向を汲み、買い物と一緒にいきおしゃれができるよう支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備、片付けに意欲的な利用者に積極的に行って頂くように支援している。	配食業者から食材を購入し、職員が個々の利用者の嗜好、食形態に合わせ調理している。バーベキューを開催したり、弁当を持参して花見に出かけたり、外食に行くこともある。菜園やプランターで育てた野菜を食事に取り入れている。誕生日には職員がケーキを作る。利用者はテーブル拭きや配膳など、出来ることを手伝っている。職員は介助しながら、利用者と同じ食事をとっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事及び水分量はチェック表を用いて、確認している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事後の口腔ケアは出来る方はやって頂き、介助の必要な方はお手伝いし夜間は義歯洗浄を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を用いて、トイレ誘導、見守り等、予防と自立支援に努めている。	排泄は自立の方が5人で、13人がリハビリパンツなどを使用している。利用者ごとの排泄パターンをもとに声掛けし、トイレに誘導し自立支援が行われている。職員の提案で、パッドの使用頻度のデータを取っている。支援の結果、失禁が改善し、パッドの使用量が減った方もいる。ユニットごとに車いす介助ができるトイレがあり、手すり、肘掛、手洗いが設置されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物の工夫や水分調整、運動等、排便を促し必要な場合は医師へ相談を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴表を用いて衛生上の管理、個々に応じた入浴ケアを行っている。	夏冬ともに、週2～3回午前中に入浴している。脱衣所には床暖房の設備があり、冬はさらにヒーターを使用している。入浴を好まない人には、時間や日を変え誘導している。希望があれば同性介助を行う。重度の人には、2人介助で対応している。入浴剤やゆず湯、菖蒲湯で季節感を味わってもらっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	規則正しい生活をして頂くことを基本としつつ、個々の希望に応じる様な支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬係を配置し、いつでも確認できるお薬ファイルを用い、職員全体で確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人一人に有する機能を活かし、楽しみや喜びのある生活を送れる様に支援する。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望された時に対応できる様、人員配置や事前の情報収集等、支援に努めている。	週2回ほど、職員が付き添いホーム周辺の雑木林などに散歩に出かけている。買い物や外食にも出かけている。玄関先のベンチでは日向ぼっこ、花火、バーベキューなどを楽しんでいる。法人の車を借りて、春の花見や四季の森公園、ズーラシア動物園にも出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人希望により金銭の所持、買い物を楽しむ支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の状況により、個々に対応している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有されてる空間は、第一に衛生を心がけ、その上で家庭的な雰囲気になる様努めている。	建物はユニットごとに別棟になっている。1階が居室で、利用者が日中過ごすリビングを2階に配置し、天窗があり採光がよく明るい。床暖房があり、加湿器が置かれていた。エレベーターはあるが、滑り止めと手すりのある階段の昇降を生活リハビリに活用している。壁には折り紙で作ったひな人形等や絵手紙の作品、行事の写真飾っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや椅子、畳部屋とくつろいで過ごせるスペースを提供している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	愛用品、愛着ある品を置き、和める空間で過ごせる様に支援を行っている。	居室にはエアコン、換気扇、照明器具、天袋付きクローゼットが備え付けられている。利用者は馴染みの整理たんす、人形、写真などを持ち込んでいる。職員からのプレゼントの、誕生日に職員から贈られた寄せ書きの額が飾られている。掃除ができる人には手伝ってもらっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレは常時点灯、各所に表示を置くなどして、自立した生活の支援を行っている。		